

国東市：全国学力・学習状況調査結果分析（小学校：算数）

1. 結果のポイント

- ・正答率は61%で、全国の58%を3ポイント、県の60%を1ポイント上回っている。
- ・領域別では、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」全ての領域で全国・県の正答率を上回っている。特に「測定」では、5ポイント以上全国の正答率を上回っている。
- ・観点別では、「知識・技能」で+4.6ポイント、「思考・判断・表現」で+1.5ポイント、全国の正答率を上回っている。

2. 課題が見られた問題と指導の改善事項（※全国の正答率を下回っていたもの）

(1) 数と計算 3 (2)



$\frac{3}{4}$  は  $\frac{1}{4}$  の3個分、 $\frac{2}{3}$  は  $\frac{1}{3}$  の2個分です。

もとにする数が  $\frac{1}{4}$  と  $\frac{1}{3}$  でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$  についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$  はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$  はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

① 出題のねらいと内容

分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

② 解答状況

・正答   もとにする数は1/12です。3/4は9個分、2/3は8個分です。

正答率 22.7% (全国 23.0%)

・誤答   通分について書いている 通分した加法の答えを書いている 23.5% (全国 26.2%)

3/4は1/4の3個分 2/3は1/3の2個分と書いている 4.5% (全国 4.4%)

無回答 13.6% (全国 15.7%)

③ 指導の改善事項

分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、既習の整数の加法に

帰着できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、異分母分数の加法について、加数と被加数の単位分数に着目し、整数の加法に帰着できるのかを考察する活動が考えられる。同分母分数の加法では、単位分数が見えやすく、そのいくつかとみることで整数の加法として考えることができる。しかし、異分母分数の場合、単位分数が異なるため、そのままでは整数の加法として考えることができないので、そのことに気付かせていくことが大切である。その上で、共通する単位分数が何なのかを考えさせ、そのいくつか分になっていることから、整数の加法に帰着できることに気付くことができるようにする。

分数の加法に限らず、小数や大きな数の学習においても、数を相対的にみる力、その際に何をもとにしているのかを考えさせていくことも大切である。

(2) 変化と関係  (4)

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の○にあてはまる数を、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

① 出題のねらいと内容

「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。

② 解答状況

・正答 2 正答率 33.3% (全国 40.9%)

・誤答 1と解答している 40.9% (全国 37.5%)  
3と解答している 18.2% (全国 14.7%)  
4と解答している 1.5% (全国 2.2%)  
上記以外の解答 1.5% (全国 0.5%)  
無回答 4.5% (全国 4.1%)

③ 指導の改善事項

基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、増量前の量を基準量として、図を使って10%や110%に当たる比較量を表したり、基準量を1として0.1や1.1に当たる比較量を表したりすることで、「10%増量」について「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして、図と式や言葉を用いて説明し、数量の関係を捉えることができるようにすることが大切である。

また、基準量の「1倍」に当たる量は基準量と変わらないことや基準量の「0.5倍」に当たる量は基準量の半分となることを捉え、基準量と基準量の「1倍」「0.5倍」「0.25倍」「0.75倍」に当たる量との大小比較に基づいて、基準量の小数を用いた倍に当たる量を捉えることができるようにすることが大切である。

【参考・引用】 令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書(文部科学省・国立教育政策研究所)